

第2章 望ましいまちの姿

「望ましいまちの姿」とは、目指すべき環境のイメージ「四季の恵みを感じましよう」を具体化したまちの姿であり、次の6つを設定します。

望ましいまちの姿1

身近な自然を守り育てるまち

東部地域では、里山や香流川沿いに広がる農地の緑が豊富で、香流川やため池等の水辺とともに、「緑豊かな長久手」の原風景を形づくり、さまざまな動植物のすみかとなっています。里山や農地は人手をかけて管理し、または作物を生産することにより成立している環境であり、決して特別な「手つかずの自然」ではありません。しかし、多くの恵みを与えてくれるとともに、私たちの心をなごませ、やすらぎを与えてくれる大切な身近な自然であり、水源かん養機能*、水害や土砂流出等に対する防災機能等、さまざまな機能もあります。

そこで、住民、地権者や農業関係者、行政等の相互理解と協力により、多様な生物が生息する身近な自然を守り、育て、次世代に受け継ぐことのできるまちを目指します。

*水源かん養機能

森林が有している機能の一つで、地表を流れる河川の水や地下水が枯渇しないように補給する働き、能力のことです。樹木、落ち葉および森林土壌の働きにより、降水を効果的に地下に浸透させ、長期にわたり貯留、流下させることにより、洪水調節、渇水緩和等、河川流量の平準化を図ったり、地下水や湿地を維持することができます。

里山とは・・・

里山とは、狭義としては標高の低いなだらかな丘陵に人手によって形成され、維持管理されてきた林のことを示し、広義としてはこのような林と周囲の農地やため池、小川、草地等と一体となって形成される環境をいいます。「里山」は、古くから人の利用と自然の豊かさが調和して保たれてきた日本を代表する自然であり、生物の多様な生息環境として、また安らぎを与える身近な自然としての機能を有しており、近年、その重要性が認識されています。本計画書では広義の意味を採用します。なお、三ヶ峯丘陵は、本町においては大草丘陵と一体となった重要な樹林であるため、本計画においては「里山」に含むものとします。

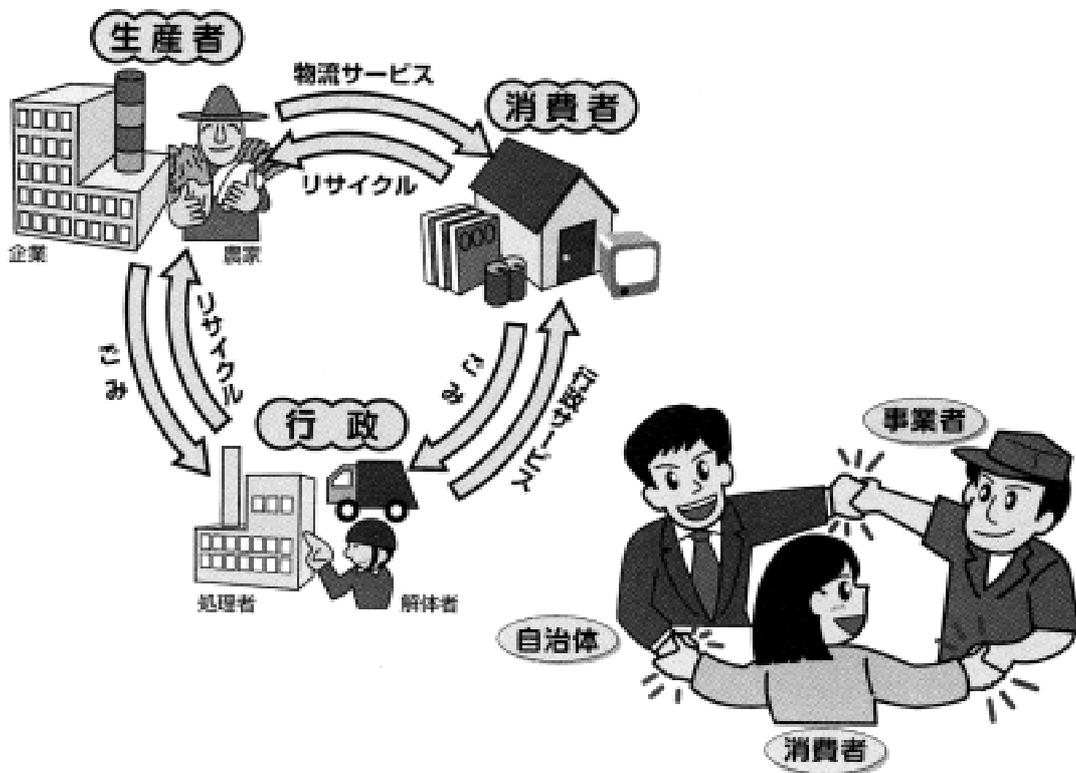
望ましいまちの姿2

ごみを出さない、捨てないまち

今日、社会経済活動が大量生産・大量消費・大量廃棄型となり高度化するにつれ、ごみの量が増大するとともに、質も多様化してきました。大量に発生するごみにより、最終処分場の残余容量が急激に減少しているだけでなく、資源採取時から、焼却処理や埋立処分に至る各段階での環境への負荷が増大しています。

本町においても、1人当たりのごみ発生量の増加、人口増加や店舗等の事業所の増加にともない、まち全体のごみ排出量は増加し続けています。現在、家庭や店舗等から排出される一般ごみの焼却処理は尾張旭市内の尾張東部衛生組合晴丘センターで、最終処分は瀬戸市の北丘灰埋立地で行われています。すなわち、本町にはごみ処理に関する「迷惑施設」がなく、ごみ処理に関する痛みを知らないまちであり、それだけにごみの減量化に向け他の市町村より一歩進んだ取り組みを行う必要があります。

そこで、「ごみは処理するもの」という認識を改め、住民・事業者・行政が一体となり、最初からごみを出さない生活や事業活動の仕組みをつくり、どうしても出てしまうごみは徹底分別し、リサイクルに努め、ごみを出さない、捨てないまちを目指します。



原材料・商品・事務用品等、「もの」を使っているのもので、すべての事業者は「消費者」でもあります。

望ましいまちの姿3

健康で安心、気持ちよく暮らせるまち

私たちは、毎日の生活のなかで空気を吸い、水を飲むといった行為を当然のように繰り返しています。こうした行為は生きるために不可欠であり、空気や水が汚れていると、私たちの健康に影響が及ぶこととなります。静かな環境やきれいな水に囲まれた生活は、多くの人が望んでいることです。また、最近では、実態が把握されていない有害化学物質の危険性も指摘されています。

本町では、これまで産業型公害はほとんど見られませんでした。しかし、都市化にともない、近隣騒音、悪臭、生活雑排水、雑草問題等の都市型の公害や交通量の増加にともなう交通公害が問題となっています。また、日常生活や経済活動に起因する環境への負荷の増大、住宅と工場が混在した状態の未解決等も問題となっています。

そこで、法令や条例等による規制に加え、住民や事業者の自主的な取り組みを促し、人が安心して暮らす上で重要な健康が保護され、誰もが安心して気持ちよく暮らせるまちを目指します。

望ましいまちの姿4

やすらぎと潤い、人にやさしいまち

私たちが毎日を健やかに、快適に過ごすためには、健康が保証される環境であるだけでは十分ではありません。緑や水が身近に感じられることにより得られるやすらぎ、文化活動に取り組むことのできる総合的豊かさや、生活の質の充実等を含む快適な環境づくりが求められています。

また、本町では、昭和40年代から急速に都市化が進み、昔からこのまちに住んでいる人、新しく越してきた人、通勤や通学のため一人で住んでいる人、お年寄り等、さまざまなライフスタイルや考え方の人が住んでいます。このようななか、快適な環境づくりのためには、この地に暮らすすべての住民や事業者が推進主体となって、地域の緑化や伝統文化の継承、高齢者や障害者を含むすべての人が利用しやすい歩道や施設の整備、長久手らしいまち並みづくりを進める必要があります。

そこで、緑や水が身近にあり、すべての人が、やすらぎと潤いを感じるができる、人にやさしいまちを目指します。

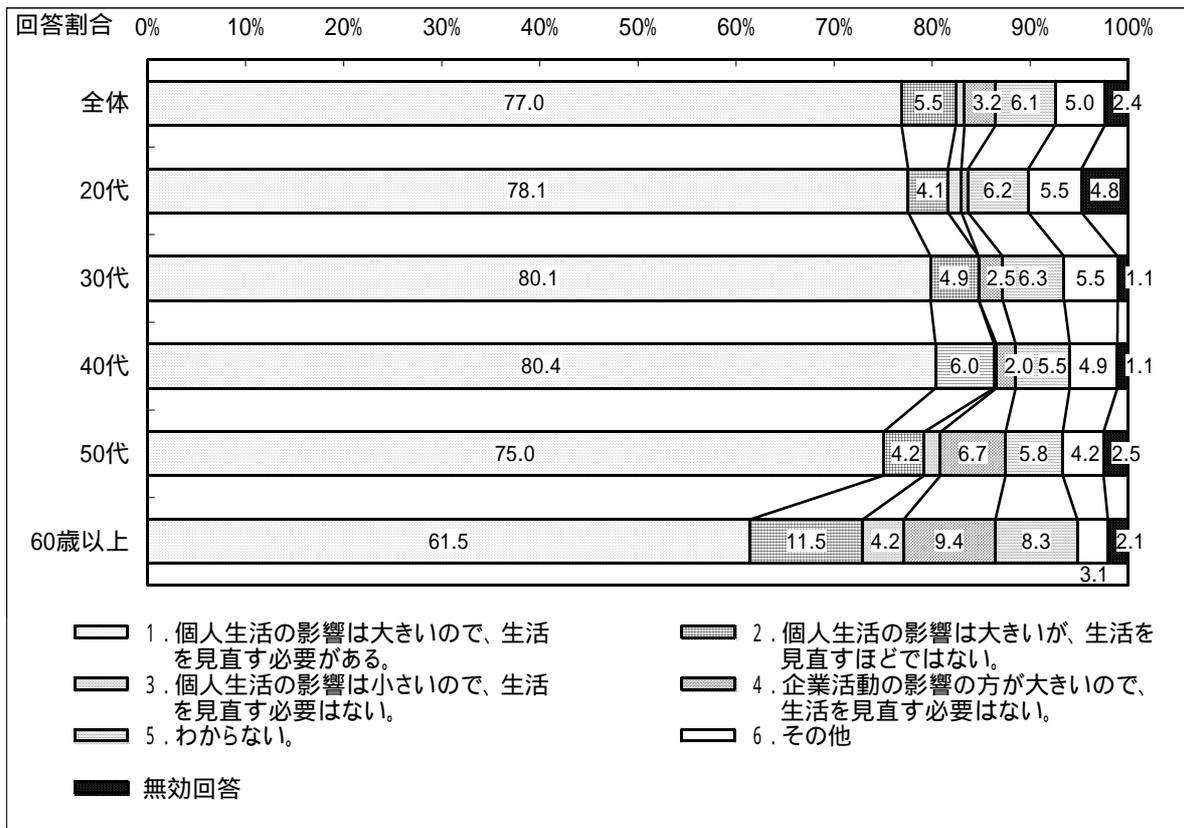
望ましいまちの姿5

地球を大切にすまち

現在、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊等の地球レベルの環境問題が生じており、その解決は人類の存続に不可欠なものとなっています。これらの問題は、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会の一員である私たち一人ひとりの日常生活や、通常の事業活動による環境への負荷が積み重なって生じたものです。すなわち、私たち全員が被害者であると同時に加害者であり、将来の世代のためにも、問題解決の責任と可能性をもっているといえます。

本町においても、現在の環境をよりよいものとするため、「個人の生活の影響は大きいので、生活を見直す必要がある」と考えている人が多くなっています。

そこで、地球環境問題の解決のため、現在のライフスタイルや事業活動を見直し、温室効果ガス、フロンガス、窒素酸化物等の排出量の削減、限りある資源やエネルギー消費量の削減等に努め、地球に対する負荷の少ない、地球にやさしいまちを目指します。



環境に対する個人生活の影響
 [資料：1999(H11)年住民アンケート調査]

望ましいまちの姿6

環境を通じた対話、交流のあるまち

今日の環境問題は、近隣騒音やごみのポイ捨て等のごく身近な問題から、地球温暖化やオゾン層の破壊等の地球規模の問題に至るまでの広がりを見せ、私たちの日常生活や通常の事業活動による負荷も大きな原因となっています。

このような幅広い環境問題を解決するためには、住民・事業者・行政の三者が、一人ひとりのライフスタイルや自らの事業活動を見直し、各々の責任と役割に応じて協力して問題解決に取り組むことが必要です。また、里山や農地の保全、ごみの減量等の施策を進めるためには、住民や住民団体、事業者の積極的な参加と協力が不可欠です。そのためには、各々の考え方や立場の違いを認めつつ、なぜ違うのか、よりよい環境の保全および創造のためにはどうすればよいのかを話し合うこと、すなわち環境コミュニケーションの確立が重要です。

そこで、よりよい環境の保全および創造のため、地域間や世代間等の住民同士だけでなく、住民・事業者・行政のすべての主体間において、環境を通じた対話、交流のあるまちを目指します。

